

奥殿学区の地域活性化計画骨子

～ 住み慣れた地域で暮らし続けるための青写真の提言 ～

令和4年2月3日

奥殿学区総代会 会長 山口和則



目次

奥殿学区活性化計画骨子の策定経緯	3
奥殿学区の人口規模と動態（隣接学区との比較）	4
奥殿学区内町内会の人口動態	5
奥殿学区のSWOT解析	6
長く住み続けられる奥殿学区とするための方策	6
子育て世代の呼び込みによる、人口減少と少子高齢化の抑止	7
自家用車や公共交通機関だけに頼らない、I Tを積極活用した生活圏の実現	8
豊かな自然や歴史的資産の活用、集客可能な施設誘致による観光客や買い物客の呼び込み ...	9
耕作放棄田畑の利活用とシニアの勤労機会の創出	10
参考情報	11

奥殿学区活性化計画骨子の策定経緯

- 令和3年04月19日 岡崎市役所経済振興部中山間政策課が来訪し、業務内容の紹介と町総代へのアンケート調査の協力依頼
- 令和3年10月07日 岡崎市役所経済振興部中山間政策課から、学区の活性化計画策定の依頼
- 令和3年10月08日 岡崎市役所経済振興部中山間政策課からの依頼を町総代に紹介
- ・
 - ・ 計画策定の適切な受け皿がないため、町総代へのアンケート結果や顕在化している課題等の知見を基に、総代会会長として「活性化計画骨子」の原案を作成
 - ・
- 令和3年11月29日 活性化計画骨子の原案を町総代に提示すると共に、各町内会に展開して意見や提案を取り纏めるよう依頼
- 令和4年01月31日 各町内会での意見、提案等の提出期限
- ・
 - ・ 具体的な施策例についての意見、提案はあるが、活性化骨子に対する異論はなかったため、細部のみ一部見直し、学区提言として策定完了
 - ・
- 令和4年02月03日 岡崎市役所経済振興部中山間政策課に対し、計画骨子を概要説明して提言

奥殿学区の人口規模と動態（隣接学区との比較）

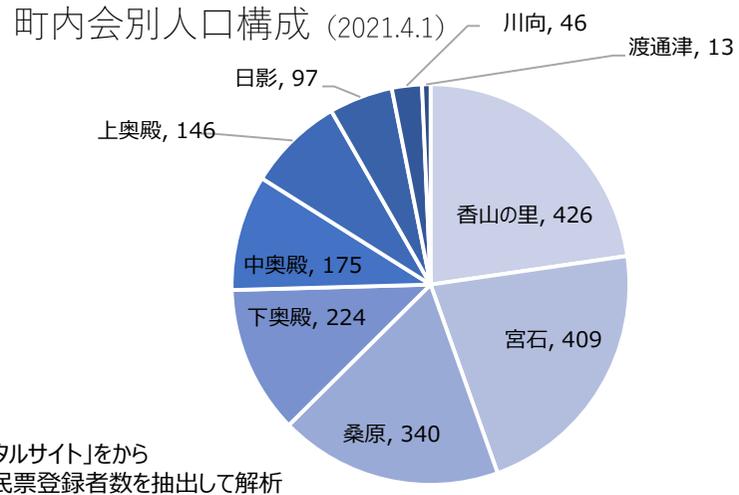
- ◆ 奥殿学区は岡崎市の北東部に位置する中山間地域で、来年度に創立150周年を迎える奥殿小学校を
通学域とする9つの町内会で構成され、隣接する学区の中では最大の面積
- ◆ 総人口は約1900人で、三つの大規模団地を有する細川学区の約5分の1、恵田学区の約2倍の規模
- ◆ 中山間地域である恵田学区と同様に人口は減少傾向にあり、12年前と比較すると、約180人が減少



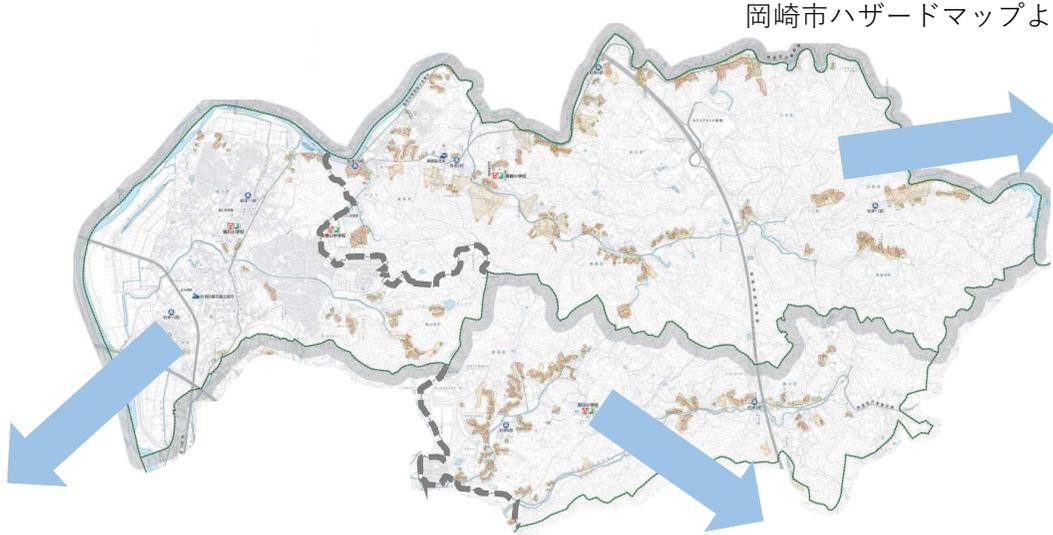
奥殿小学校



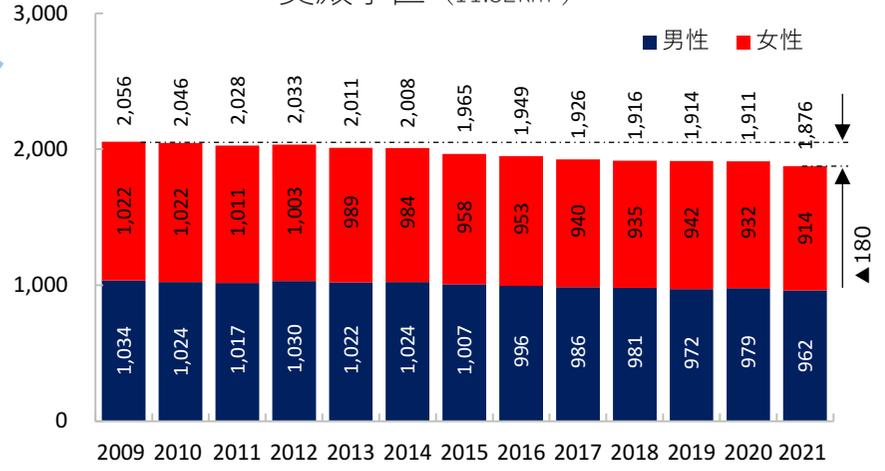
奥殿陣屋



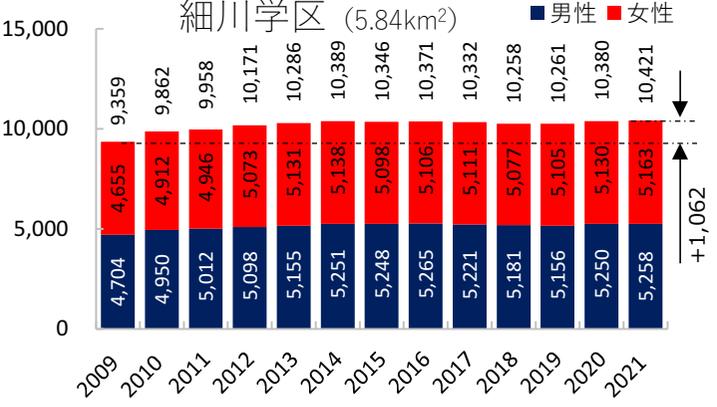
注) 人口情報は、岡崎市の「統計ポータルサイト」から各年度初日時点(4/1)での住民票登録者数を抽出して解析



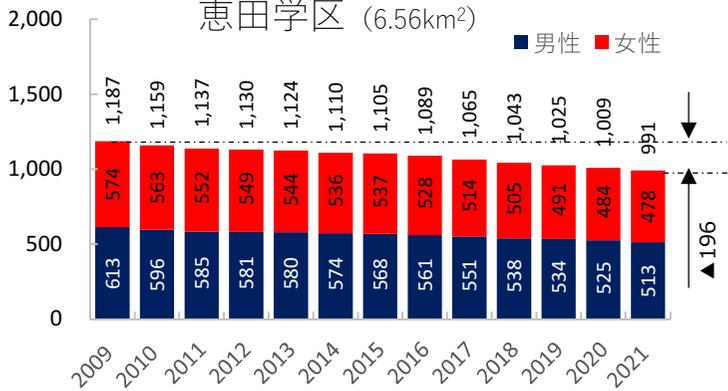
奥殿学区 (11.82km²)



細川学区 (5.84km²)



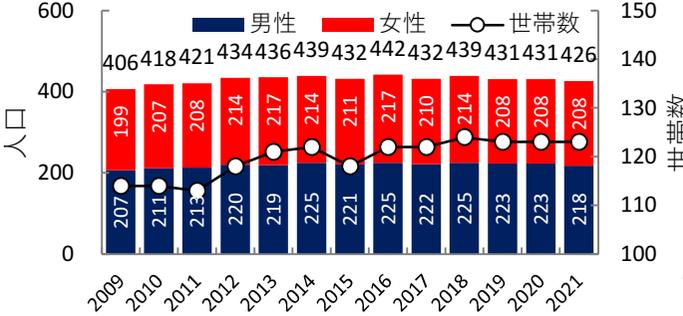
恵田学区 (6.56km²)



奥殿学区内町内会の人口動態

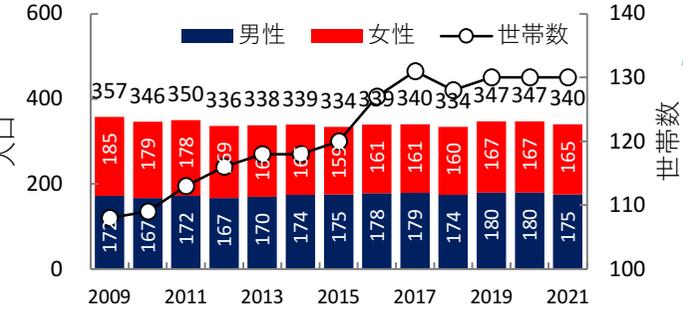
- ◆ 桑原と下奥殿以外では、人口減少の傾向
- ◆ 特に、川向、日影、渡通津の過疎化傾向が顕著

香山の里の人口推移



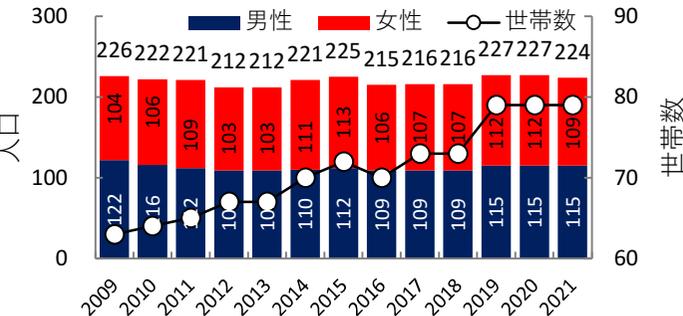
二世帯化の緩い傾向

桑原の人口推移



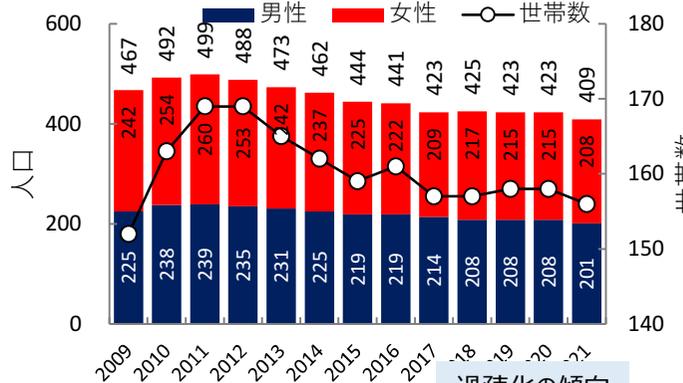
二世帯、核家族化の傾向

下奥殿の人口推移



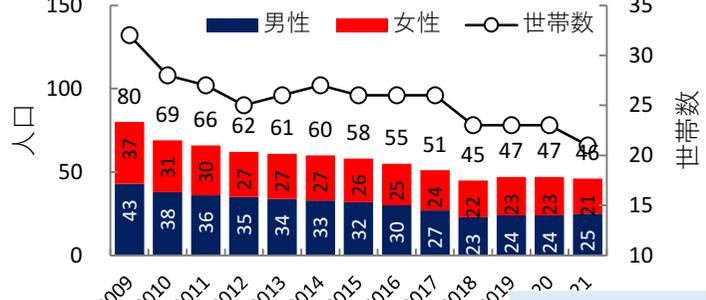
二世帯、核家族化の傾向

宮石の人口推移



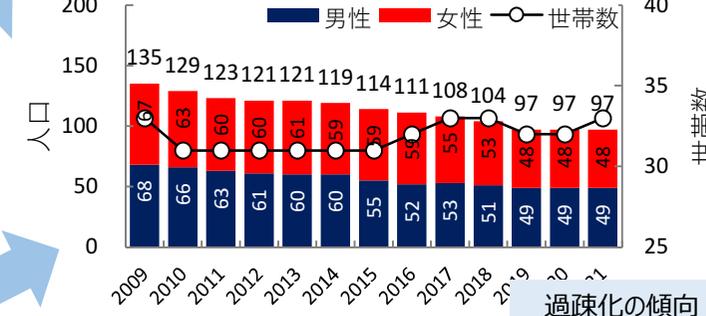
過疎化の傾向

川向の人口推移



過疎化の傾向

日影の人口推移



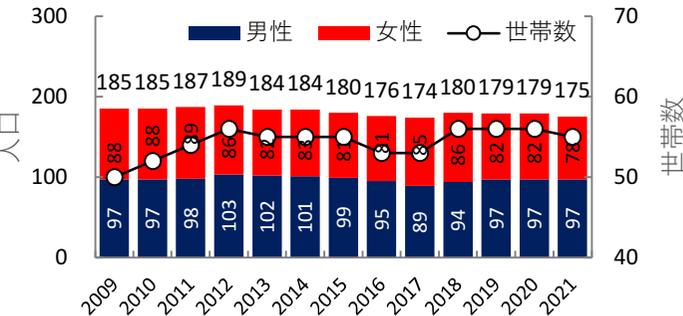
過疎化の傾向

渡通津の人口推移



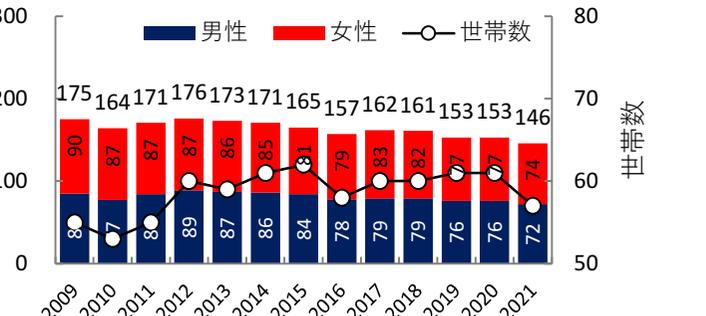
町内会消失のリスク

中奥殿の人口推移

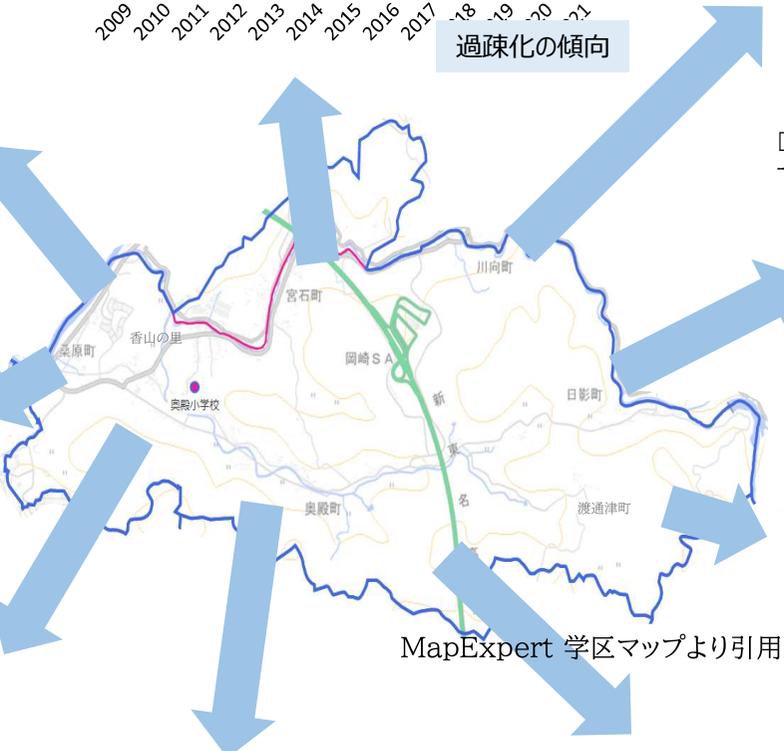


人口減少の緩い傾向

上奥殿の人口推移



人口減少の傾向



奥殿学区のSWOT解析結果

強み (S)

- ◆ 四季の草花、ホタルや星の鑑賞等、豊かな自然環境
- ◆ インターネット、下水道等、生活環境インフラが整備
- ◆ 歴史や伝統を守り育てる風土
- ◆ 奥殿陣屋等の観光施設
- ◆ 岡崎SAの存在

弱み (W)

- ◆ 住民の高齢化と地域の担い手不足
- ◆ 耕作放棄された狭小面積の田畑が点在
- ◆ 田圃を畑地に変更する世帯の増加

機会 (O)

- ◆ 市民農園の設置要望
- ◆ 高速道路網への良好なアクセス（スマートインターチェンジ設置で強化）
- ◆ 農業体験可能な田畑の存在

脅威 (T)

- ◆ 鳥獣害の影響大
- ◆ 公共交通手段の不足
- ◆ 用水路の老朽化による大量の農業用水確保が困難

中山間政策課が纏めた2021年8月の町総代アンケート調査結果を基に作成

長く住み続けられる奥殿学区とするための方策

人口動態、SWOT解析結果を基にすると、次の考え方に沿った実行計画を具現化していくことが適切と考える。

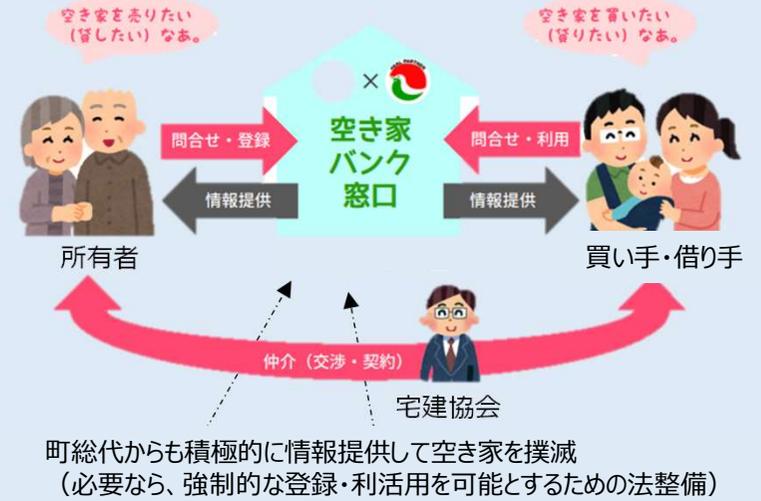
- ◆ 子育て世代の呼び込みによる、人口減少と少子高齢化の抑止
 - ✓ 空き家バンクの積極活用、市街化調整区域規制の一部解除によるミニ団地造営で若年層家族への移住呼び込み、財政支援
 - ✓ 地元と密接に連携した魅力的な教育環境（少人数学級の特徴を生かした児童教育）
- ◆ 自家用車や公共交通機関だけに頼らない、ITを積極活用した生活圏の実現
 - ✓ バス路線を核に、少子高齢化時代が進行する奥殿学区に適した公共移動手段で補完することにより交通弱者を救済
 - ✓ 市民ホーム、公民館、寺社等の活用によるオンライン受診、遊休施設や空き地への無人コンビニ誘致
- ◆ 豊かな自然や歴史的資産の活用、集客可能な施設誘致による観光客や買い物客の呼び込み
 - ✓ 歴史的資産を有機的に繋ぎ、四季の移ろいが感じられる遊歩道の設置、オートキャンプ場やグランピング等の誘致
 - ✓ 奥殿及び恵田学区の農産物やジビエ食品を直売する「道の駅」や「スーパー銭湯」を岡崎SA周りの未活用地に誘致
- ◆ 耕作放棄田畑の利活用とシニアの勤労機会の創出
 - ✓ 鳥獣害の対策を前提に、日常の手入れを地域住民に委ねる「農園オーナー制度」の導入

子育て世代の呼び込みによる、人口減少と少子高齢化の抑止

岡崎市、豊田市及び周辺都市への自家用車通勤に便利な地域である上に、地域住民の支えと自然豊かな環境の中で情緒を育み、一人一人に目が行き届きめ細かい児童教育が可能な環境であることから、子育て世代の家族にとっては魅力ある地区といえる。

したがって、学区内の空き家情報を市の「空き家バンク」に積極的に提供すると共に、税制的支援も得ながら若い世代の移住を呼び込むことで、人口減少を抑制することとしたい。

現在分譲中の奥殿分譲地が好調な契約状況のようであり、学区内の宅地需要は高いと思われるので、小規模団地開発が可能となるよう市街化調整区域規制の一部解除も行政にお願いしたい。



岩松保育園



奥殿小学校

地域社会との密接な連携の下、少人数学級、自然との触れ合いを重視した情緒育成に適した子育て環境
こどもの家での放課後学習が可能 (共稼ぎ家族に重宝)



奥殿分譲地

1 (33-4)	契約済	7 (33-14)	
2 (33-5)	契約済	8 (33-15)	
3 (33-10)		9 (33-16)	現在地
4 (33-11)	契約済	10 (33-17)	
5 (33-12)	契約済	11 (33-18)	契約済
6 (33-13)	契約済		

好調な分譲状況から、宅地需要は高いと推定



MapExpert 学区マップより引用

自家用車や公共交通機関だけに頼らない、I Tを積極活用した生活圏の実現

単線の路線バスに加えて、団塊世代の免許返納で交通弱者の急激な増加が予想される。市内～奥殿陣屋までのバス路線を核とした公共移動手段の在り方については、年度内に恵田学区と共同で立ち上げる「高齢化時代の新しい公共移動手段を実現する北部中山間地域連絡協議会」の場で行き組むこととしている。

これだけでは十分ではなく、病院通院や食料品買出しを極力学区内で完結できるような取組みも併せて必要となる。

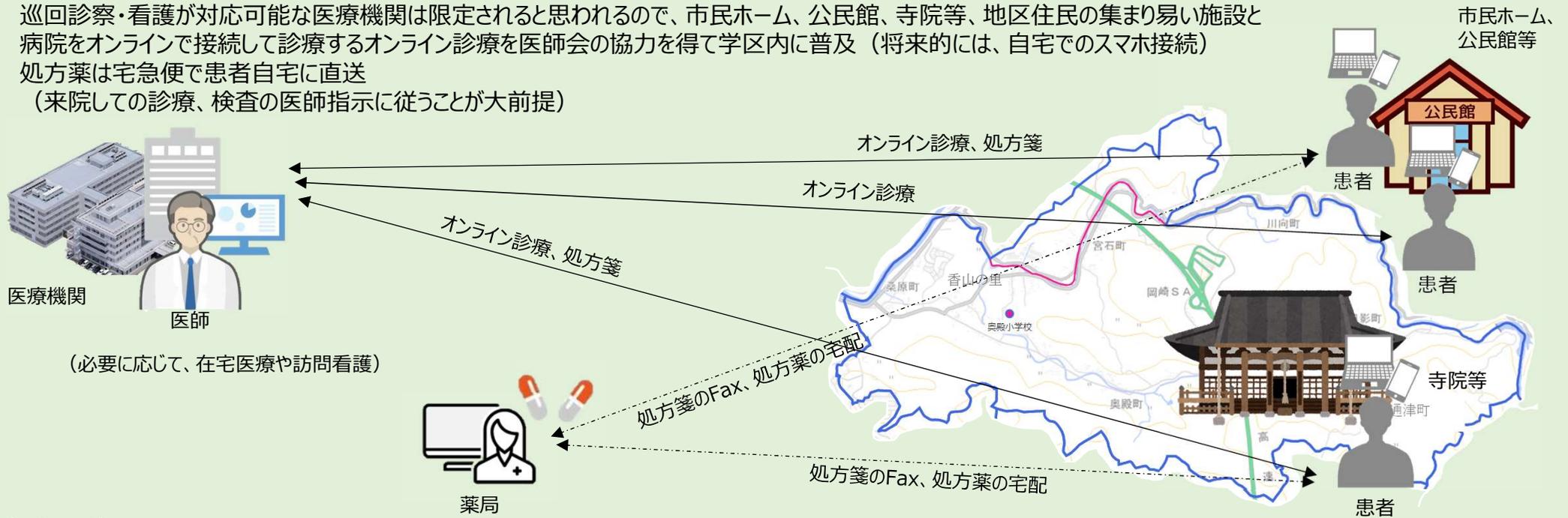
学区内のI T環境を更に拡充し、愛知医科大学メディカルセンター等の医療機関の協力を得たオンライン診療とコンビニ会社と連携した無人コンビニを提案したい。

● オンライン診療

巡回診察・看護が対応可能な医療機関は限定されると思われるので、市民ホーム、公民館、寺院等、地区住民の集まり易い施設と病院をオンラインで接続して診療するオンライン診療を医師会の協力を得て学区内に普及（将来的には、自宅でのスマホ接続）

処方薬は宅急便で患者自宅に直送

（来院しての診療、検査の医師指示に従うことが大前提）



● 無人コンビニ

巡回移動販売車だけではなく、生鮮食品を含む食料品を扱い、キャッシュレス決済可能な無人店を学区内に数点設置
コンビニ、スーパー、アマゾン等の注文品直送サービスも併用



セブンイレブンの例 (getnews.jp)



高輪ゲートウェイ駅の売店 (ameblo.jp)

豊かな自然や歴史的資産の活用、集客可能な施設誘致による観光客や買い物客の呼び込み

奥殿学区は、奥殿陣屋、歴代藩主御廟所、村積山、中部電力初の水力発電所、石仏等の歴史的遺産、奥殿陣屋のバラ園や花畑等の豊かな自然環境に特徴がある。これらを有機的に結び付けた遊歩道、オートキャンプ場、グランピングを設置・誘致して若者層にアピールすることとしたい。

また、岡崎SA周りには広大な未利用土地があり、有効活用が望まれている。奥殿学区の孟宗竹の子、栗、ジビエ食品等、恵田学区の葡萄等を直販する「道の駅」や「スーパー銭湯」を誘致できれば、スマートインターチェンジの利便性と相まって観光客や買い物客を呼び込めると思われる。



奥殿陣屋



奥殿歴代藩主御廟所



七神宮



松平往還



龍溪院



スーパー銭湯

道の駅（特産品直売所）



豊かな自然、伝統を有機的に結合させた遊歩道、オートキャンプ場、グランピングを学区内に誘致して若者家族を呼び込み



岩津水力発電所



石仏



杉木立



岡崎SA

SA周りの空き地を活用して、農産物の直売所のある「道の駅」や「スーパー銭湯」を誘致



MapExpert 学区マップより引用



西光寺



石仏



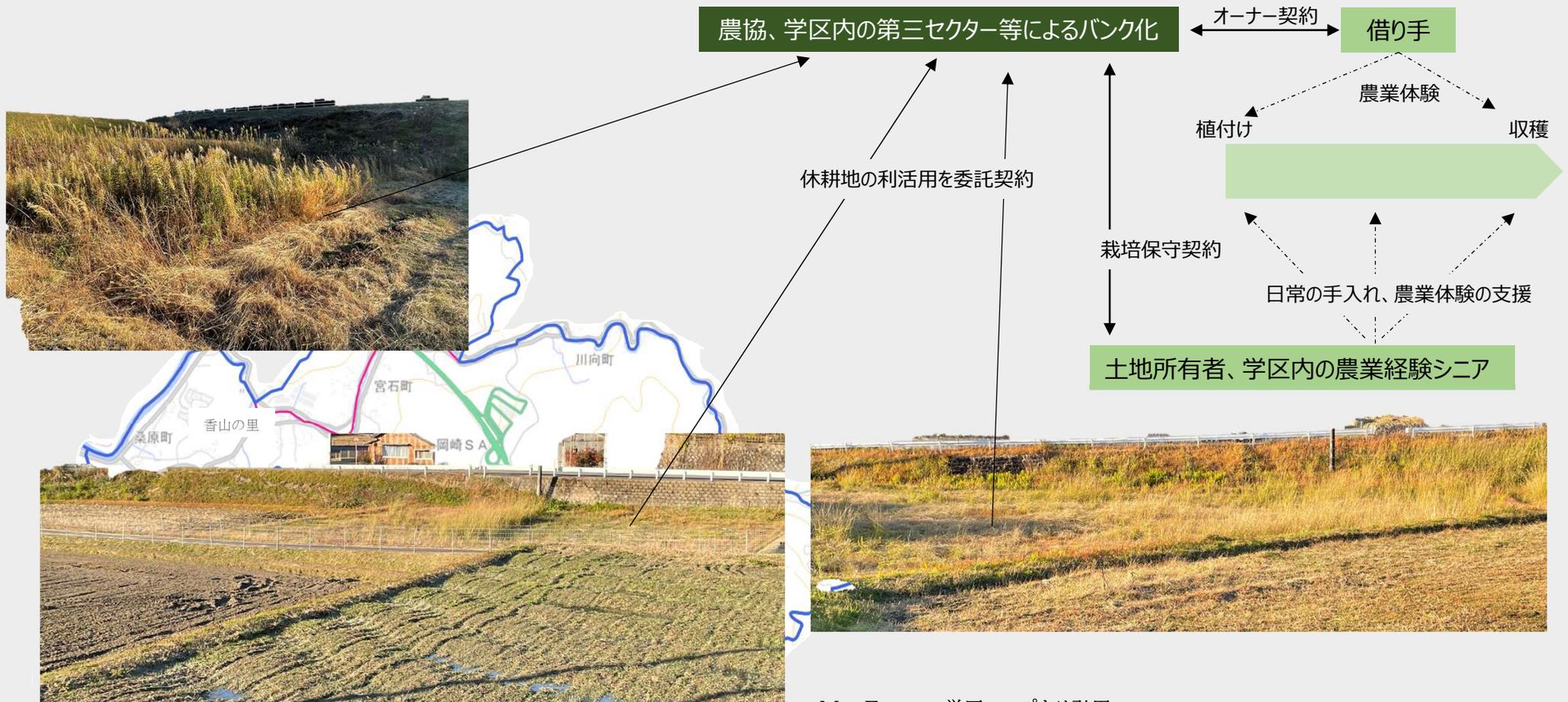
二畳が滝

耕作放棄田畑の利活用とシニアの勤労機会の創出

農業従事者の高齢化で耕作を放棄せざるを得なくなった休耕地が学区内にも目立ち始めている。休耕地は、雑草の生え茂りや害虫の発生が隣接する耕作地にまで悪影響を及ぼすとの問題が指摘されるため、何らかの対策が求められる。

休耕地は点在し、一区画当たりの面積が狭い上に、大量の農業用水が得にくいとの課題が指摘されているが、安心して食べられる野菜等を自分で栽培したいと考える農園体験希望者の視点に立てば適切な規模感となっている。但し、イノシシ等の鳥獣害の対策を行政支援を得て整えていくことが大前提となる。

農業体験の要望はあることから、休耕地を一括管理する組織をあいち三河農協等の協力を得て設立し、市内外の借り手が希望する農作物の植え付けから日常の手入れ、収穫までを土地所有者や農業経験シニアに有償委託する「農園オーナー制度」を導入することを提案したい。シニア層の勤労機会創出にも繋がる。



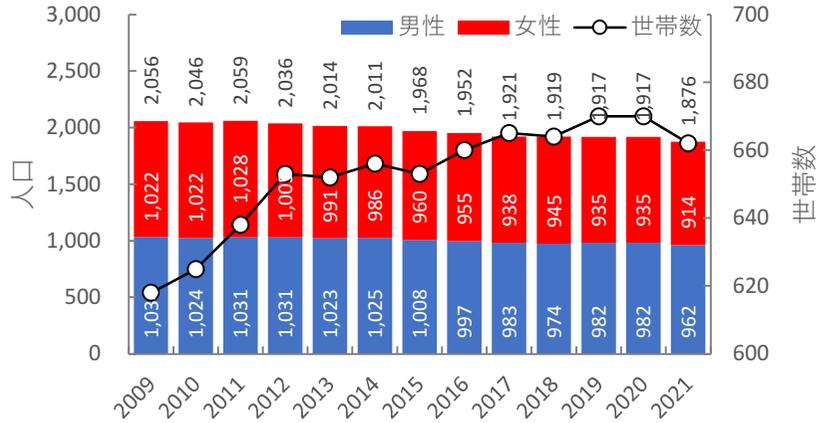
MapExpert 学区マップより引用

参考情報

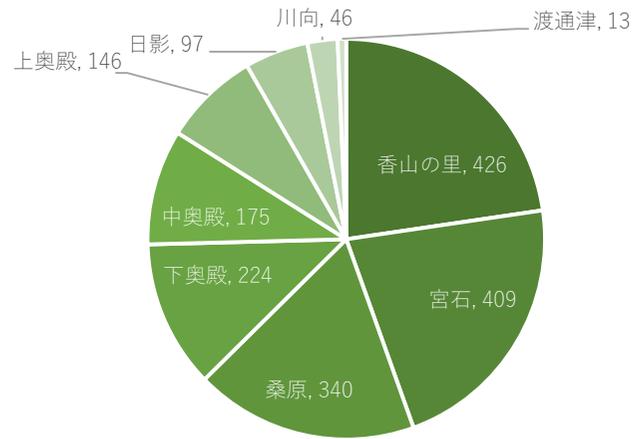
奥殿学区の人口動態データ

注) 人口情報は、岡崎市の「統計ポータルサイト」から
各年度初日時点(4/1)での住民票登録者数を抽出して解析

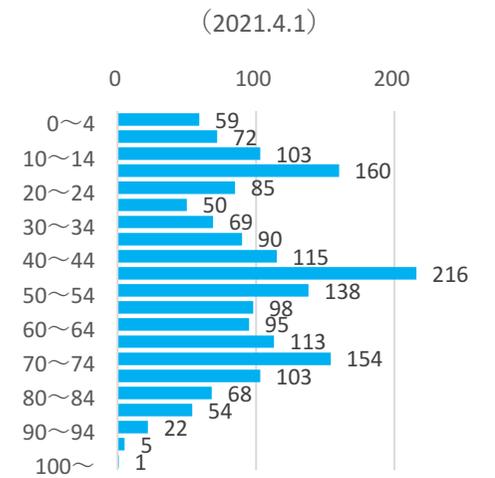
奥殿学区の人口推移



町内会別人口構成 (2021.4.1)

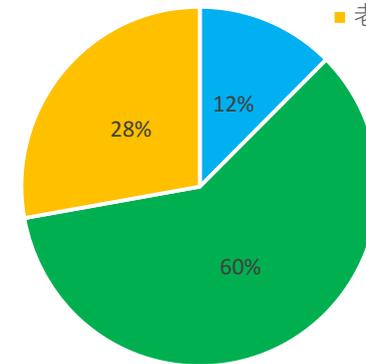


奥殿学区の年齢構造 (2021.4.1)



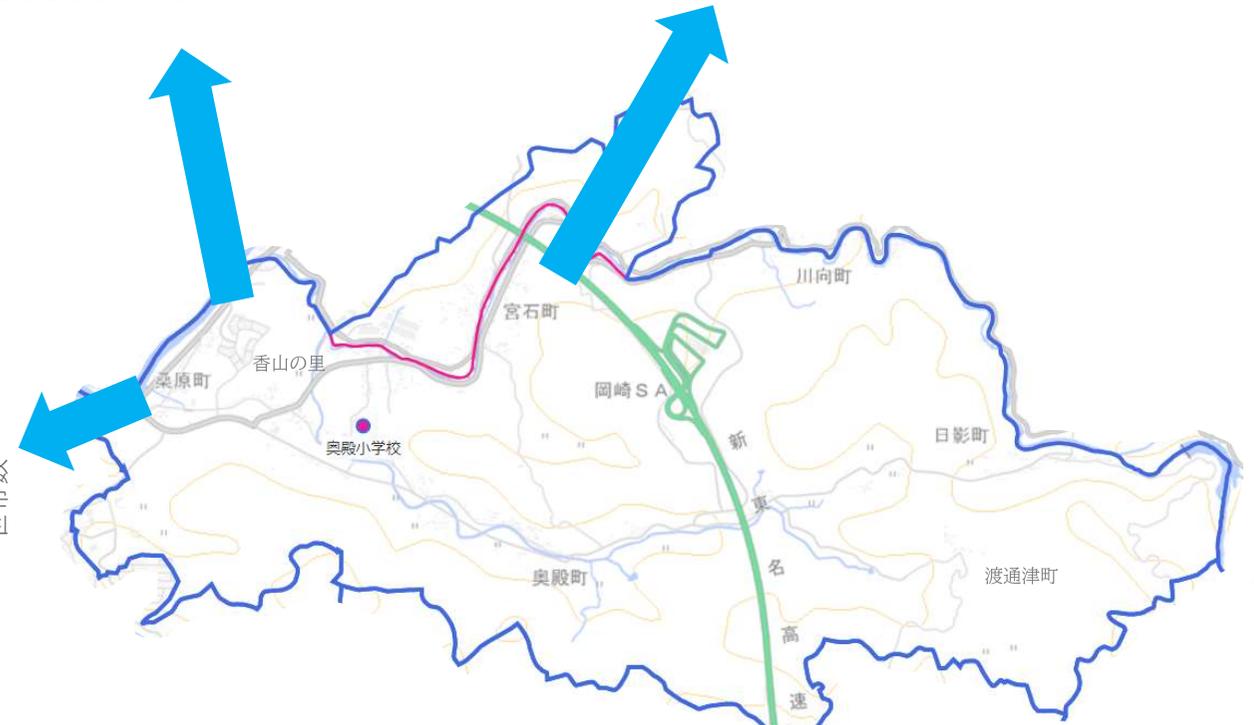
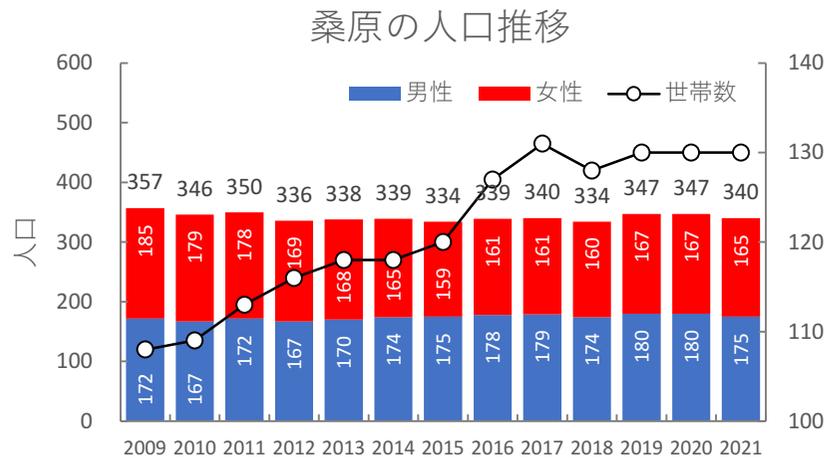
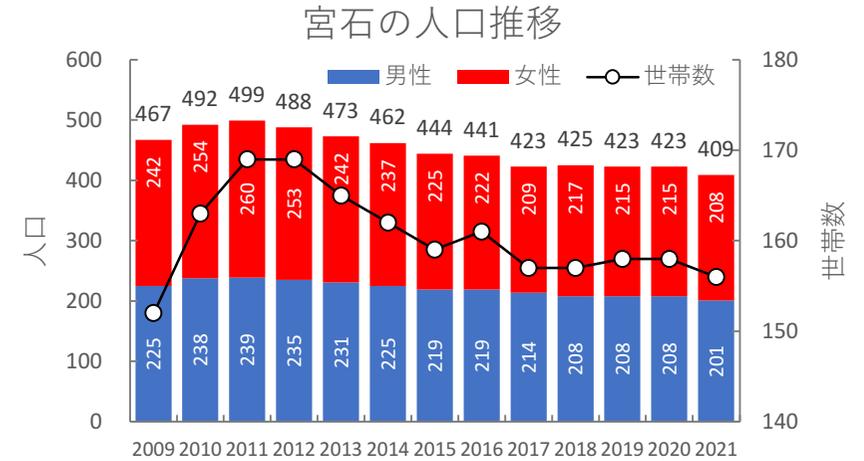
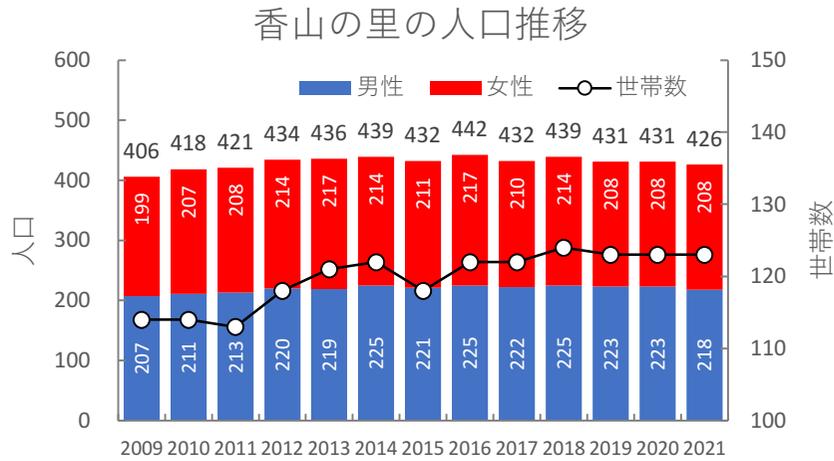
MapExpert 学区マップより引用

- 年少人口(0~14歳)
- 生産年齢人口(15~64歳)
- 老年人口(65歳以上)



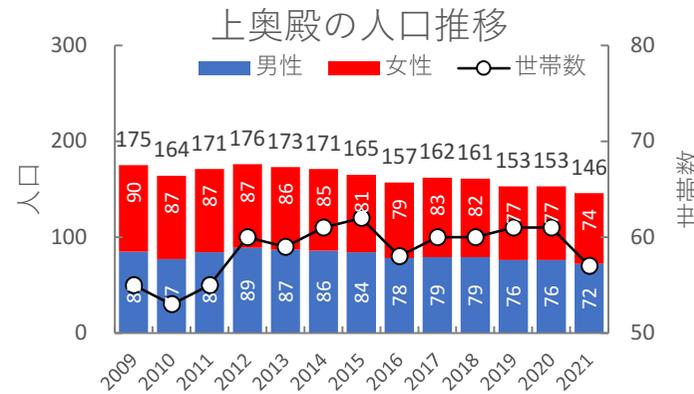
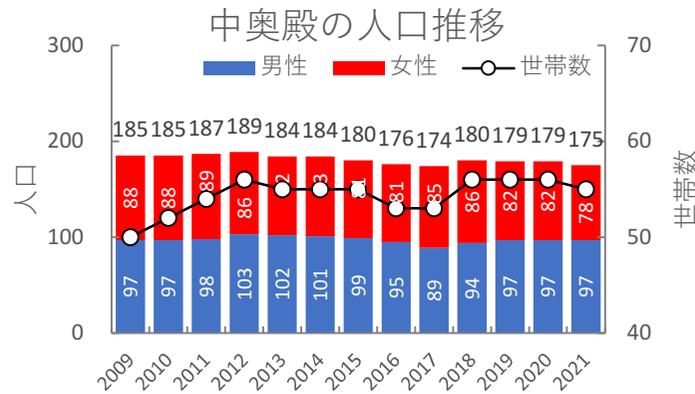
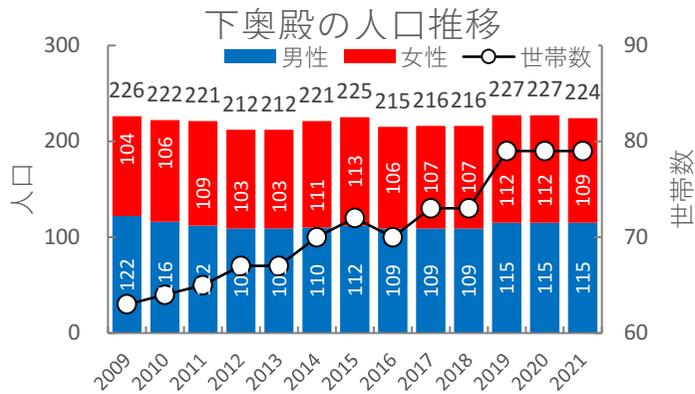
奥殿学区・桑原、香山の里及び宮石町内会

- ◆ 奥殿学区で総人口が3番目の桑原町内会は、約340人の人口に維持されているが、2017年までは世帯数が増加しており、この間は二世帯化や核家族化が進行したと思われる。
- ◆ 奥殿学区で最大の人口を有する香山の里町内会は、2016年頃をピークに人口が減少する傾向にある。世帯数は微増していることから、二世帯化の進行が考えられる。
- ◆ 2010年に宮石上、宮石中、宮石下の三つの町内会が統合して誕生した宮石町内会は、2011年をピークに総人口と世帯数が減少しており、過疎化の傾向が認められる。



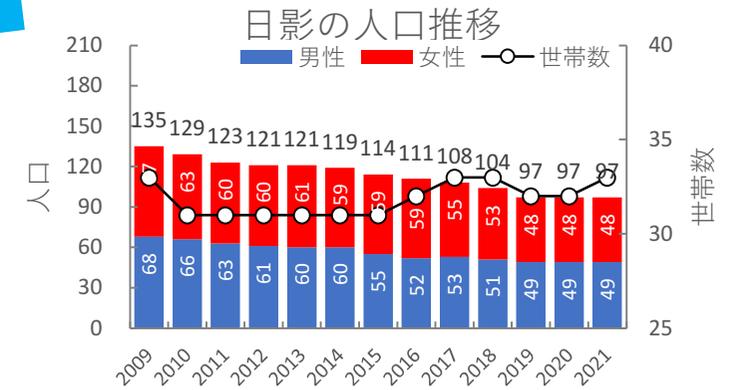
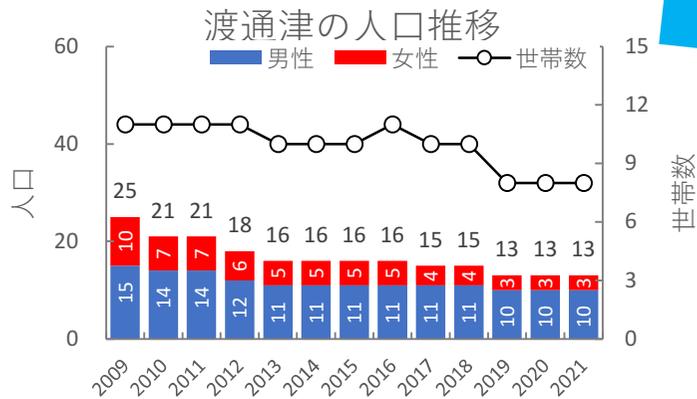
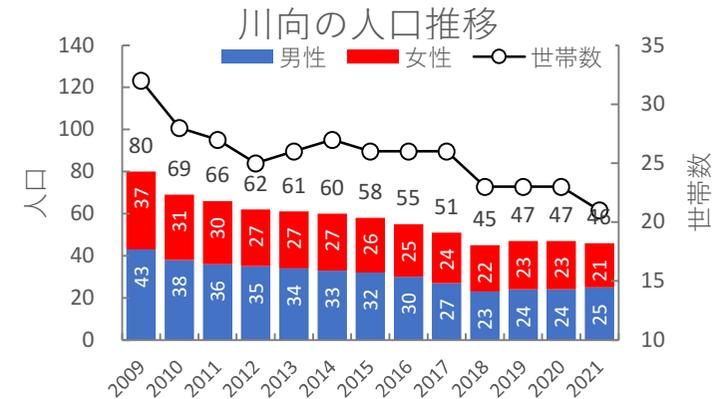
奥殿学区・上奥殿、中奥殿及び下奥殿町内会

- ◆ 下奥殿の世帯数が伸びており、二世帯化や核家族化が進展しているものと思われる。今後、人口増に繋がる可能性がある。
- ◆ 中奥殿と上奥殿では、人口が緩やかに減少し、世帯数も減少の傾向にある。少子高齢化が進行しているものと思われ、過疎化に繋がっていくリスクが考えられる。



奥殿学区・川向、日影及び渡通津町内会

- ◆ 三つの町内会ともに、総人口が減少している。特に川向と渡通津は世帯数も減少しており、過疎化の傾向が顕著となっている。
- ◆ 日影は、世帯数が約33世帯に維持されて総人口が減少していることから、高齢化が進展しているものと推定される。



高齢化時代の新しい公共移動手段を実現する北部中山間地域連絡協議会（略称；新公共移動手段連絡協議会）

令和4年3月26日
奥殿学区総代会会長 山口
恵田学区 " 岡田

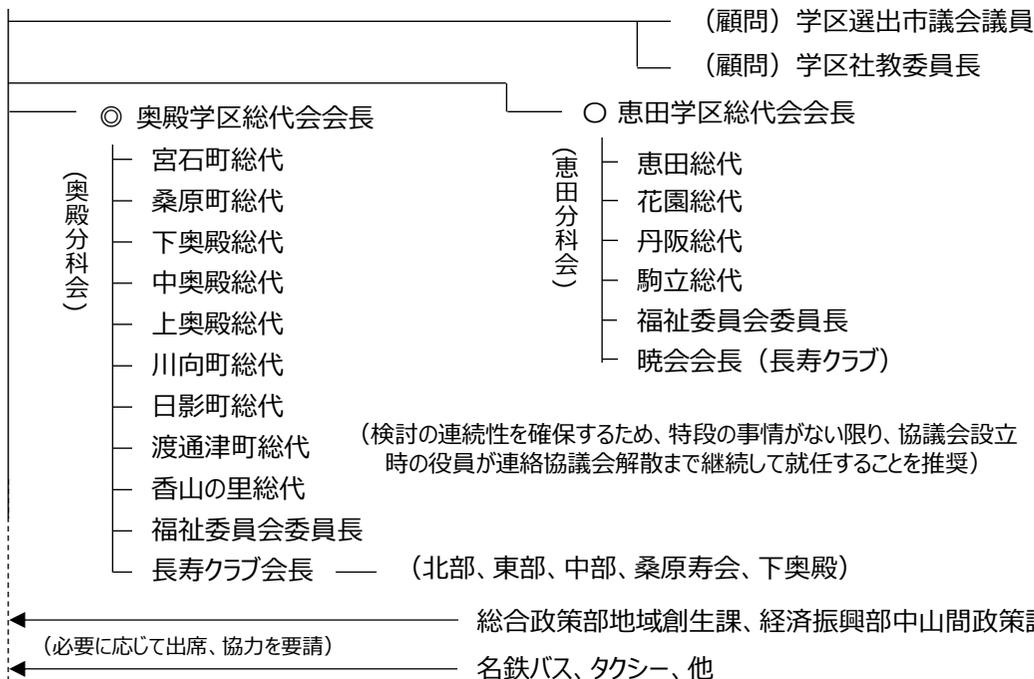
令和3年度の市長表敬訪問時に奥殿学区から提出した「公共交通コミュニティ充実化」要望に対する岡崎市の賛同が得られたので、従来から同じ課題を抱えていた恵田学区と共同で解決策を調査研究し、市政に提言して実現させる地域の受け皿として本協議会を設立する。

経緯（参考）奥殿学区の公共交通コミュニティ充実化要望に対し、「隣接する恵田学区との連携も考慮し、地域の主体的な取組みを基礎に地域の特性やニーズにあった持続可能な公共交通を目指していきたい」との市長回答があったため、恵田学区に共同活動への参画を呼び掛けた。その結果、両学区での了承が得られたので、協議会を設立し活動することになった。

協議会の組織

- ◆ 町総代を核に、福祉委員会と長寿クラブの代表者で構成し、市議会議員と社教委員長に顧問をお願いすると共に、必要に応じて岡崎市関係部局や交通機関業者に出席、協力をお願いする。
- ◆ バス路線の有無、学区間の道路事情等を考慮すると、両学区一体の解決策は困難と思われるため、各総代会会長をリーダーとする分科会方式で主体的に活動を進め、全体会議では進捗状況の確認と行政への働き掛け方針の協議決定を諮る場とする。

新公共移動手段連絡協議会（◎；会長、○；副会長）



北部中山間地域（岡崎市公共交通マップから抜粋）

大日程

約30%の住民が免許返納世代になると予測される令和5年度末までに、先行している他地域の例も参考にして、交通弱者の救済策と学区内実情を見据えた新しい移動手段の実行計画を策定する。

